

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17300000	健康こども 子育て支援		
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	05	カナリヤの家費	
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	①健康寿命の延伸 ②健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	①(男性)81.00歳(女性)86.00歳 ②70.0%	
中事業	03	主要な取り組み	発達支援は、早期発見、早期医療								
小事業	02	幼児療育支援事業（定住）		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	令和元年度、1市7町村の小学生のうち支援を必要とする児童（特別支援学校小学部在籍、小学校特別支援学級在籍、通級指導教室通級）は、全児童の約9%になる。その中で増加傾向にあるのが、支援を必要とする児童の53%を占める、通級指導教室に通う「発達障がい」又はその傾向のある児童である。また、通常学級に在籍している児童の中にも、集団生活に適応できず不登校になる児童や発達特性に気づかれないまま周りの大人から注意や指導を受けることで不適応行動を見せる児童がいる。支援を必要とする児童が健やかに成長する為、早期発見と早期支援の充実、一貫した支援体制の構築が必要となる。				
	事業目的	(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 定住自立圏域の幼児療育に関わる関係職員 (2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるか） ・乳幼児期の早期発見と早期支援の充実、多種多様な障がいに対応できる療育支援 ・早期発見から繋がる一貫した支援体制の構築。 ・早期発見に関わる療育施設の役割強化と地域連携の充実。				
	事業概要	・各市町村の持つ資源やネットワークを活かしての研修や専門職等の派遣支援。 ・基礎知識と専門的技術の習得を図るための人材育成研修開催。 ・圏域の共通課題について学び合う合同研修の開催。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	720	720	760	670	
	決算額	450	320	522		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	142 / 54				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	人材育成研修及び専門職支援の実施回数（回）	目標値	19	24	35	39
		実績値	19	18	31	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	受講内容が療育に活かした職員の割合（%） ※アンケート結果より	目標値	90	90	100	100
		実績値	100	100	100	



実 績	実 績	■人材育成研修 ・責任者研修2回/4回：「今、療育が果たす役割」研修と情報交流 ・若手研修 7回/8回：公開療育と実践検討会 ■専門職支援 22回/23回：作業療法士による実践指導・ビジョン検査と療育実践指導 ■合同研修会 ・講演「見え方に困り感のある児の理解と支援」 講師：茅野 晶敬（オプトメトリスト・特別支援教育士）
	効 果	・人材育成研修（1市7町村）での責任者研修では、情報交流で学んだことを市町村に持ち帰り、書類形式の改善や、行事などの取り組み改善につなげられた。若手研修では、療育スキルが高まり、療育実践に活かされている。 ・専門職支援（1市3町1村）では就学前にビジョン検査を実施する有効性について、関心を持つ町が増えた。療育施設のない地域では保育園が作業療法士による実践指導を受け入れ、保育士の学びに繋がった。 ・合同研修（1市5町村）では参加者72名の参加により認知発達や学習の基礎となる見え方の問題を、保健師、保育士、教員と共に学べたことで、共通認識をもって子どもの発達を理解する機会となった。



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	新型コロナウイルス感染状況を鑑みて、2回分の研修等を中止としたため、目標値を下回った。
	K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	・受講内容が療育に活かした職員の割合は100%となった。現場研修であったことや、1市7町村の全市町村が公開療育実践研修を行ったことで、講師から学ぶこと共に他市町村の実践から具体的に学ぶことができ、講義内容が療育に活かした職員の割合が100%となった。 ・他の要因として、専門職の派遣支援の講師が、現在市町村が必要としている専門職を希望できることから、研修内容が療育に活かせる内容となり割合100%に繋がったと考える。
	実績からR05年度の事業の方向性	・人材育成研修については、引き続き各市町村持ち回りで公開療育等を実施する。 ・専門職等の派遣支援に効果があることから、来年度は七宗町が作業療法士の専門職支援を受ける。また、今年度オプトメトリストの専門職支援を受けた富加町と白川町は継続してオプトメトリストの専門職支援を受ける。発達支援内容が複雑化また多岐に渡ることから、その時々必要とする専門職の派遣支援を実施していく。 ・合同研修については、令和5年度は岐阜県から「障害幼児研究会」の事務局の委託を受け、県内の療育関係者らと圏域内の課題をテーマとした講演会やビデオ公開療育を受講する。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体				17300000	健康こども 子育て支援		
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	05	カナリヤの家費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	①健康寿命の延伸 ②健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	①(男性)81.00歳(女性)86.00歳 ②70.0%
中事業	03	主要な取り組み	発達支援は、早期発見、早期医療							
小事業	03	カナリヤの家管理運営事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	発達の遅れがみられる児童等には適切なサポートが必要である。 保健センターが実施する乳幼児健診にて要支援対象児が増加しており、就学児健診においても支援対象児増加している現状がある。 また、子どもの育て難さからくる保護者の精神的不安も問題となっている。				
	事業目的	(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 美濃加茂市に在住している障がい児及びことばや心身等の発達に心配や不安感のある乳幼児 (2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 乳幼児の健やかな発達を促し、集団に適應でき、言葉や運動、社会性などの発達が促されることにより 保護者の心配や不安感が取り除かれ、安心して子育てができるようになる。				
	事業概要	相談支援事業…「児童福祉法」及び「障害者総合支援法」に基づく障害福祉サービス（児童発達支援・保育所等訪問支援・放課後等デイサービスなど）の支援を必要とする児童を持つ保護者に対して計画相談を行い、サービス内容の調整を行う。 児童発達支援…児童の発達段階に寄り添い、日常生活における基本的な動作・知識技能の習得、集団生活への適應などの発達支援、また保護者は児童の発達段階を理解し、子育てに安心して取り組めるような相談支援を行う。 保育所等訪問支援…集団生活へ適應するための専門的な支援を必要とする児童に対し、集団生活を営む施設に訪問し「児童本人に対する支援」及び「訪問先の施設のスタッフに対する支援」を行う。 地域支援…関係機関にて相談・アドバイスをを行う。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,559	4,431	5,478	4,953	
	決算額	3,821	3,926	4,873		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	12,340 / 9,270				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	カナリヤの家への通所日数（％） 通所実績日数／通所可能日数	目標値		80	80	80
		実績値		83		

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	利用者の満足度（アンケート結果）	目標値		80	90	90
		実績値		90		



実 績	実績	・通所児童数 86名 ・一般相談件数 650件 ・計画相談児童数 児童発達支援 100名 放課後児童デイサービス 60名 ・療育内容（SST・感覚統合・遊戯療法など） ・家族支援（親の会運営・保護者勉強会開催など）
	効果	・早期発見、早期支援により0歳児から3歳児の通所児増加 ・子育て包括支援との連携により、多面的支援の展開 ・保護者の発達特性理解による就学決定



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	カナリヤの家通所日数について、手帳及び診断名を持つ児は月4日、発達の心配で通所する児は月3日となっている。通所により子どもの発達が促されることを実感する保護者は、休むことなく通所される。目標値を達成できたということは保護者の実感を得ることが出来ていると考えられる。
	K P I分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	保護者と共に作成する個別支援計画書や発達検査実施等実施、また、通所毎の保護連携など、きめ細かい支援体制の実施により、子どもの成長を保護者が実感できたと考える。
	実績からR05年度の事業の方向性	引き続き保育所等への巡回発達相談を充実させる。 R5年度から健康課に療育者を配置するため、健康課での発達相談も充実させる。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計			事業主体		17300000	健康こども 子育て支援		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	03	児童保育費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！		K P I	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合			目標値	①500人 ②40.0%
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て							
小事業	05	児童保育対策事業			目標年度	令和6年度				

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	児童が病気になる、保護者が仕事を休まなければならないため、保育をする 場が必要である。					
事業目的	(1) 対象 病児保育…生後2カ月から小学6年生までの児童 保育研究協議会…市内公立、私立の全保育園の保育士 (2) 目的 病児保育…病院（中部国際医療センター・太田病院）において病気の児童の保育を 行い、安心して子育てができる環境を整備し、児童福祉の向上を図る。 保育研究協議会…各種研修会を開催し保育の質の向上に努め、いずれの事業も子育 て世代が安心して生活できるまちづくりを図る。					
事業概要	病児保育事業 保護者の子育て及び就労の両立を支援するとともに児童の健全な育成及び資質の 向上に寄与するため、疾病の回復期であり、保育所等における集団保育が困難であ る児童を保育する事業（定員は7人/日（2箇所合計））。 保育研究協議会補助 保育研究協議会へ補助金を交付する。協議会は、市内全保育園の保育士を対象に 、全体及び各部会別研修会等を開催し、保育の向上に努めている。					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	12,448	12,298	21,713	16,164	
	決算額	10,266	10,896	20,048		
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		201 /				448

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	病児保育事業の広報掲載回数（回）	目標値	1	1	1	
	実績値	0	2	1		

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	病児保育の定員数（１日当たり） （Caminhoの成果指標と同じ）	目標値	7	7	7	
	実績値	7	7	7		



実
績

実 績	病児保育利用者 ブーさんの部屋（中部国際医療センター） 23人 たんぼぼ（太田病院） 94人 合計 117人
効 果	病気の児童の保育の提供を行い、安心して子育てができる環境の整備及び 児童福祉の向上につながった。



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	広報紙に病児保育の案内を掲載し、啓発を図ることができ目標値を達成で きた。 R5年度から活動指標とKPIを当事業の成果がより正確に測ることができる 指標に変更する。 活動指標 病児保育事業の周知回数 KPI 病児保育の利用登録者数
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	病児保育の定員数は、１施設が４名、もう１施設が３名であり、年間の利 用数は、前年度より減少している。 R5年度から活動指標とKPIを当事業の成果がより正確に測ることができる 指標に変更する。 活動指標 病児保育事業の周知回数 KPI 病児保育の利用登録者数
実績からR05年度 の事業の方向性	病児保育事業についてR5年度は、にじいろ面談やきずなメールで周知を図 り、安心して子育てができる環境を整備し、児童福祉の向上を図るため引 き続き病児保育事業を実施し、安心して子育てができる環境づくりをする 。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計			事業主体		17300000	健康こども 子育て支援		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	01	児童福祉総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	①500人 ②40.0%
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て							
小事業	07	子育て支援事業			目標年度	令和6年度				

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化の中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大している。					
事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 子育て中の保護者、子育て支援に興味関心がある市民、これから父親母親になる中学生 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 子育てに関する情報提供（子育てハンドブックなど）、親子の絆作りプログラム（ベビープログラム1,2）の実施、ノーバディズパーフェクトプログラムの実施、子育てサロンの開設、命のバトンふれあい教室の開催、子育て講演会の開催など、子育てで不安の軽減子育ての楽しさ、地域に根ざした子育て支援を行うことにより、安心して子どもを生み育てることができるようになることを目指す。					
事業概要	在宅で子育てをする母親の子育ての悩みや孤独感を軽減し楽しく子育てができるように、交流の場や学ぶ場を作ったり、自分なりの子育ての方法をみつける手助けをする。 命のバトンでは、中学3年生を対象に実施し、将来、安心して子育てができるように伝えていく。 また、保育補助や学童保育の支援員などで働く意欲を高めたり、ボランティア等への参加を促すことで、地域で活躍できる人材を掘り起こす。					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	13,139	12,728	21,752	22,694	
	決算額	10,281	10,785	20,718		
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		2,216 / 3,797				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	子育て関係人口の増加（参加者） （子育てサロン+命のバトン+プレスクール）	目標値	23800	23900	24000	
	実績値	5327	6977	12185		

アウト カ ム	KPI（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	各年度の出生数 (CaminhoのKPI、500人を維持)	目標値	500	500	500	
	実績値	470	450	407		



実 績	実績	利用者数 サンサン8,935人、すくすく138人、にこにこ0人、山之上サロン641人、ベビープログラム①51人②42人、ノーバディズパーフェクト31人、命のバトン1校242人、プレスクール2園31人、一時預かり2,074人
	効果	同じ環境や世代の人と交流したり、話し合ったりすることで、自分なりの子育ての方法を見つけたり、悩みなどを共有することができ、孤独感や不安感を軽減す手助けができた。



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	コロナの影響などでコロナ前と比較し、実施回数が減っていることもあり、参加者数が増えていない。 R5年度からは活動指標・KPIを当事業の成果をより正確に測ることができる指標に変更する。 活動指標 子育て関係事業の周知回数 KPI 子育て関係事業の参加者数
	KPI分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	出生数は減少している。 R5年度からは活動指標・KPIを当事業の成果をより測ることができる指標に変更する。 活動指標 子育て関係事業の周知回数 KPI 子育て関係事業の参加者数
	実績からR05年度の事業の方向性	R5年度は、にじいろ面談やきずなメールで周知を図り、交流の機会や学びの場に参加する人を増やし、孤独感や不安感を軽減する。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17300000	健康こども 子育て支援		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	01	児童福祉総務費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	①500人 ②40.0%	
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て								
小事業	08	地域子育て支援拠点施設運営事業		目標年度	令和6年度						

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大してる。					
事業目的	(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 子育て中の保護者とその子ども (2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 子育て支援拠点（ほたるの広場）での各種イベントや体験教室などに参加することにより、 子育てに悩む保護者の相談を通じて子育てを応援し、安心して楽しく子育てができるようにする。					
事業概要	子育て相談、子育てサークル活動等を通じて、地域における子育て支援の中心となる子育て支援のための拠点施設を設置することにより、地域における子育てしやすい環境の整備の促進を図る。 ・乳児又は幼児及びその保護者の相互の交流の促進に関する事業 ・子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助に関する事業 ・子育てサークル及び地域における親子の育ちを支援する団体（子育てサークル）並びに子育てボランティアの育成及び支援に関する事業 ・地域（三和）住民とのふれあいを通じて、地域みんなで子育てをする事業					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,818	11,534	3,347	2,674	
	決算額	998	10,306	2,736		
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		404 / 9,239				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	子育て支援施設利用者数	目標値	4800	4850	4900	
	実績値	1457	5217	17390		

アウト カ ム	KPI（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	各年度の出生数 （CaminhoのKPI：500人を維持）	目標値	500	500	500	
	実績値	470	450	407		



実 績	実績	・にじいろ広場 13,178人 ことばの相談24回 リズム遊び12回 おはなし広場12回 制作遊び24回 パパと遊ぼう6回 赤ちゃん体操24回 夏祭り1回 クリスマス会1回 キッズフォト4回 乳幼児 学級お楽しみ会1回 保育園説明会1回 ・ほたるの広場 4,212人 制作遊び24回 離乳食教室12回 食育教室5回 親子遊び 33回 季節の遊び24回 ママ講座48回 キッズフォト・ 親子体操13回 赤ちゃん体操45回 乳幼児学級（多胎児教 室）11回 アジサイ子育て広場41回
	効果	多くのイベントや講座などを開催することで、子育て中の親子が施設を訪れ、同じ環境の親子と交流することができ、孤独感や不安感を軽減し、安心して楽しく子育てができるような支援ができた。



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	利用者数については、コロナの影響はあるものの、前年より増加している。さらに、にじいろ広場の開設（令和4年1月）により増加している。 R5年度からは活動指標・KPIを当事業の成果をより正確に測ることができる指標に変更する。 活動指標 子育て支援拠点の周知回数 KPI 子育て支援拠点の参加者数
	KPI分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	出生数は減少している。 R5年度からは活動指標・KPIを当事業の成果をより正確に測ることができる指標に変更する。 活動指標 子育て支援拠点の周知回数 KPI 子育て支援拠点の参加者数
	実績からR05年度の事業の方向性	R5年度はにじいろ面談やきずなメールで周知を図り、引き続き子育て支援拠点（ほたるの広場、にじいろ広場）での各種イベントや体験教室などを行い、子育ての不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援する。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17300000	健康こども 子育て支援		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	01	児童福祉総務費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	①500人 ②40.0%	
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て								
小事業	10	ファミリー・サポート・センター事業（定住）		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感が増大している				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 子育て中の保護者とその子ども（利用会員）、子育ての手伝いをしたい人たち（サポート会員） （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるか） ・地域における育児の相互援助活動の推進により仕事と育児を両立し、安心して働くことができる環境を整えることで、保護者の負担軽減ができ、安心して楽しく子育てができる。 ・利用会員・サポート会員共に社会との関わりを持ち続けることにより、生き甲斐を感じ、地域の子育てを支える一員として元気に暮らすことができる。				
	事業概要	・子育てを手伝って欲しい人（利用会員）と、子育ての手伝いをしたい人（サポート会員）が、会員となって地域でお互いに助け合いながら子育てを応援する事業。 ・ファミリー・サポート・センターの運営を委託することにより、常に連絡が取れる体制が出来、利用会員とサポート会員のより良い調整や交流会などができる。 ・会員や子育てに関心のある人、子育て中の人を対象に、子育て支援研修を実施し、子育てについて学ぶ機会を作る。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	9,376	9,376	9,376	9,128	
	決算額	8,556	8,869	8,804		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	403 / 180				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	サポート会員の登録者数（人）	目標値	100	103	120	130
		実績値	95	118		

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	ファミサポ利用者数 （CaminhoのKPI）	目標値	780	800	830	900
		実績値	641	1532	901	



実 績	実績	・研修については、24時間の子育て支援講座、会員研修等の3回実施した。 ・健康課の乳児健診や転入手続きの時に窓口にて事業を紹介し、無料券を配布した。無料券の利用は166枚あった。 ・今年度の登録会員は、1,068人、内訳は利用会員が926人、サポート会員が118人、両方会員が24人であった。 ・周知の方法は、健康課の乳児健診でのチラシ配布及び子育て支援講座募集の広報誌への掲載を行った。
	効果	・保護者が仕事と育児を両立し、安心して働くことができる環境を整えることで負担を軽減し、安全安心で子育てができるサポートができた。 ・利用会員とサポート会員の相互が助け合うことで子育てのネットワークづくりができた。 ・ファミリーサポートセンターの利用登録者数が増加した。。



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	・サポート会員については、令和3年度95人から令和4年度は118人と増加している。 ・内訳は、美濃加茂市、富加町、川辺町、七宗町の方が増えている。 ・増加の要因は、子育て支援講座の開催により、参加者が登録したこと等による。
	K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	・前年と比べ利用者数は減少している。特に保育所・幼稚園の登園前の預かりと送り、迎えと帰宅後の預かり、子どもの習い事等の場合の援助が大きく減少している。 ・困難家庭に関する援助については利用者数は減少しているが全体に占める割合は増えている。 - R3：512件/1,532件 33.4% R4：352件/901件 39.1% ・減少の要因は、毎日のように利用していた特定の方が必要としなくなったため。
	実績からR05年度の 事業の方向性	・保護者の負担軽減と利用会員とサポート会員の子育てのネットワークづくりのため、サポート会員の研修を実施し、サポートの質の向上や会員相互の交流会を継続して行う。 ・各市町でサポート会員を増やし、相互に利用できる範囲を広げるように働きかけたり、ファミリーサポートセンター事業について子育て中の保護者への周知をしたりして事業の実績向上につなげる。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17300000	健康こども 子育て支援		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	01	児童福祉総務費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	①500人 ②40.0%	
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て								
小事業	13	乳幼児期親子支援事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化の中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大している。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 乳幼児期（０歳～未就園児）の子どもと保護者 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 乳幼児期家庭教育学級への入級生を広く募集し、学級生自らが年間の学習スケジュールを計画して子育てに関する学習や研修などを進め、学級を地区や子どもの年齢などによって細分化することにより、地域で同じ世代の子どもを育てる保護者のつながりを深め、地域で仲間と一緒に親子で成長していくことができる礎を構築し、乳幼児期家庭教育学級を終了した後も子育てへの興味関心を持ち続け、地域活動などに積極的に参加できる市民を育む。				
	事業概要	「From-0歳プラン」のスタートである、乳幼児期の子どもを育てる親を対象とした教育プログラムを展開します。 ○乳幼児期家庭教育学級乳幼児（０歳～３歳）を対象とした親子で子育てを学ぶための学級を各地区において合計２４学級を開級する。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額 決算額	785 225	785 326	785 240	785	
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		403 / 3,838				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	乳幼児期家庭教育学級の周知回数 (回)	目標値	5	5	5	5	5
		実績値	5	5	5		

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	新生児期家庭教育学級への参加率	目標値	44	46	48	48	48
		実績値	20.5	27	17.5		



実 績	実績	乳幼児期家庭教育学級への親子延べ参加数 2,573人 15学級 児童数172人 R4新生児数462人の内0歳児クラス参加者数81人 参加率約17.5%
	効果	子どもが生まれてから保育園等に入園するまでの間、親が地域の仲間と一緒に子育てなどを学ぶことにより、仲間と一緒に親として成長します。また、学級を通じて地域の仲間とのつながりをもつことによって、子育て初期の親の孤独感を減らす効果も期待できます。



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	初めての対象者には、直接案内をするようにしている。また、広報等による啓発も行っている。
	K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	保護者の仕事復帰の早まりなどにより、すでに保育園に通う子もいるため、参加率が低い状況である。
	実績からR05年度の事業の方向性	R5年度は、にじいろ面談やきずなメールで周知を図る。子どもが生まれてから保育園等に入園するまでの間、親が地域の仲間と一緒に子育てなどを学ぶことにより、仲間と一緒に親として成長できるよう引き続き事業を進める。